

第7回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会会議概要

日時：令和4年3月10日（木）午後7時～午後7時50分
場所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 会長（区長）あいさつ
- 3 議題
(1) 令和3年度活動報告について
(2) 令和4年度の活動予定について
- 4 その他（意見交換）
- 5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 協議会座席配席図
- ・ 第7回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会資料
- ・ 資料 - 1 新大阪駅東口まちづくりの考え方
～新大阪駅東口まちづくりビジョン検討案～
- ・ 資料 - 2 新大阪駅東口まちづくりの考え方・アンケート結果
- ・ 【参考】部会議事概要
地域のつぶやき（構想部会資料より）
構想部会ニュース（構想部会資料より）

1. 開会

2. 会長（区長）あいさつ

3. 議題

(1) 令和3年度活動報告について

(事務局)

- ・ まちづくり構想部会につきましては、奇数月の第2木曜日を定例開催としている。第32回まちづくり構想部会から第35回まちづくり構想部会において、各地域の取り組み等を報告し合うことにより情報の共有や意見交換等を行ってきた。また、今年度は昨年度に引き続きコロナ禍の影響が大きく各地域内でのワークショップの開催などが困難だったことやアクションプランの作成状況の振り返りを行い、アクションプラン作成に向けてまちづくり構想部会のメンバーで目標の再確認や地域への報告会（仮称）開催について検討を行った。また、本日、この会議の後、第36回まちづくり構想部会を開催する。
- ・ 意見交換の中で地域での夏祭りを秋に開催をされた地域の話が印象に残っている。時期を変えることによって、炎天下での準備がなくなり役員の方々の負担を軽減することができたと報告があった。また、感染症対策を講じながら、子ども食堂の再開や盆祭りの代わりに、子供弁当を販売した地域、食事サービスについても、地域でいろいろ考えた結果、高齢者の方の安否確認も含めて必要だろうと、やり方を工夫し続けているなどの情報交換があった。
- ・ 事務局としては、アクションプランの作成に至らなかったことについては残念であるが、コロナに負けずに様々な工夫を凝らして地域でご活躍されている部会員同士の情報交換の場、交流の場となった点については、部会の意義があったと感じている。

- ・新大阪駅東口まちづくり部会では、令和2年10月の第4回部会以降、事務局でまちづくりビジョンの内容について検討を進め、昨年12月に第5回部会を開催し、新大阪駅東口のまちづくりビジョンの検討内容を提案した。また、本年1月28日から2月13日までの間、新大阪駅東口まちづくり考え方について、地域の方々をはじめ、市民の皆さんから意見を頂戴するため、オンラインによるアンケートを実施した。2月には第6回部会を開催し、アンケート結果とまちづくりの考え方、今後の進め方について確認いただいたところである。また、アンケート結果と資料は区役所HPへも掲載する。
- ・最後に、まちづくり構想部会では、コロナ禍の状況で、部会員からの意見を会議以外の場でも反映できるツールとして、部会員向けのフェイスブックを新たな活動の場として令和2年から引き続き開設している。部会員同士での活発な意見交換、情報交換ができるように話題提供をお願いしたいと思う。

(補足及び質疑応答)

(久教授)

- ・コロナ禍が2年続いており、私たちの暮らしや社会全体も変わっていく中で、枠組みを越えた新しいまちづくりを考えていく時期に来たと期待している。
- ・夏祭りの話は、今までのものを一度見直し、いいものは続け、変えていけるものは変えていくチャンスがやってきたのではないかと思う。
- ・まちづくり活動はそれぞれ担う主体があるが、個々バラバラに進めていくと地域としてまとまりがなくなってしまう。策定中のビジョンが大きな方向性を示しているのだから、それに沿いながら進めていただけたら地域としてのまとまりがありつつ、それぞれの主体が特徴を出せるような活動ができるのではないかと期待している。
- ・新大阪駅東口のまちづくりビジョンに関して、すでに新大阪駅西口の方では大きな開発が進んでいる。新大阪駅東口は差別化をして特徴を出していくことが大きな柱になると思う。2つの意味合いの玄関口であり、全国の新幹線やリニアなどを含めた玄関口と同時に東淀川西部地域の玄関口である。東に行った時に何があるか、温かみのある下町的なところと全国発信のまちをどのように融合していくかを深めれば、西口とは違う差別化されたまちづくりができるのではないかと期待している。

(2) 令和4年度の活動予定について

(事務局)

- ・まちづくり協議会については、来年3月に各部会の活動報告を予定している。まちづくり構想部会の開催時期はこの間の活動と同様に2か月に1回、全6回を予定している。
- ・新大阪駅東口まちづくり部会については、まちづくりの考え方を取りまとめいただいたので、区役所HPへの掲載を行う。今後、北陸新幹線やリニア中央新幹線計画の具体化などのタイミングを踏まえてビジョンを更新しながら、状況に応じたまちづくりを進めていく必要があると考えている。来年度は、まちづくりの考え方に沿って、検討対象用地の活用方策の検討や、まちづくり基本計画の検討などを経て、パブリックコメントの実施とまちづくりビジョンの策定に向けて、部会員の意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えている。部会の開催時期については、部会員と調整させていただき進めたいと考えている。

(補足及び質疑応答)

(委員・部会員)

- ・構想部会では、地域ごとにアクションプランを作っていこうと議論をしている。ただ、コロナ禍で議論ができないところではあるが、地域活動は各地域工夫をしながら継続して頂いている。先ほど久先生からもあったように、この数年のコロナ禍の中で、大きく社会が変化しているなかで、東淀川区で制定された「東淀川区地域保健福祉計画」は、部会の中でも関心が高いと意見を頂いている。「東淀川区地域保健福祉計画」の具体化について、部会等の中でも議論を深めていきたいと考えている。
- ・事務局から提案のあった進め方については、先ほど久先生からもあったように、社会の変化について、本部会でも再認識しておく必要があると考えている。コロナ禍において、新大阪東口、さらには東淀川西部地域のまちづくりを組み立てていく視点は欠かせないと思っている。
- ・教育、文化、人権についての意見が地域からも出ている。東淀川区の案として人が住み続ける、多様な人々が交流できる視点で具体化を図っていききたいと思う。国の資料の中に「ゾーニング」という言葉が見受けられる。住民と一緒に生活が続けていけるといった視点が大事なのであり、人権文化教育ゾーンなど発信してはどうか。
- ・新大阪駅東口のビジョンを作成することについては、地元、各企業、役所で一緒に提案していきたいと思っている。民間活力を導入する、この言葉だけが先行するのではなく、官民協働でしっかりと計画を立てるといことを謳ってもらいたい。地元も含めて官民が協力して提案する、このスタンスをしっかりと貫いて欲しいと思っている。

(会長)

- ・一般の声を広く集めて、民間との融合を図るような動きが色々な区で出てきている。そういう手法を学びながら進めていきたい。地元の意見が入って来るべきだと思うし、何を必要としているのか具体的に聞かせていただきたいと思っている。
- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議にはオブザーバーとして出席している。新大阪駅周辺で大きな開発が考えられているが、更地のところに作るわけではない。過去から生活が営まれている人たちをどうするのかを配慮した、ゆるやかな開発、発展を考えて欲しいと発言させていただいた。また、前回の会議では、新大阪駅東口の開発と時期が若干のズレがでることは仕方がないが、淡路については連立事業が動き10年もすればまちが出来上がることを理解して欲しいと伝えた。あと、新大阪東口のまちづくりの考え方を取りまとめてHPに掲載しており、バリアフリー協議会として、考え方を整理しているので、足並みをそろえて欲しいと伝えている。
- ・保健福祉計画に関して、今各地域において、17地区の地域福祉計画を作ろうとしている。日ごろの地域医療の役にも立つが、災害時に活かせるような、地区・地域の福祉計画を作っていきたいと思っている。

4. その他 (意見交換)

(久教授)

- ・バブル期に策定した計画をベースに大金を使って大きな開発をした結果、次の再開発でも大金を使うことになりそうで問題になっている地域がある。一方、西部地域では小さな建て替え事業が動いていくことによって、まちが少しずつ身の丈にあったやり方で変わっていきける。

- ・50年くらいの視点でどちらがいいのかを考えると、無理なくまちが更新される後者のやり方である。世界的に見ても、大きな開発をするのではなくて、小さな開発の組み合わせでやっていく事業が多くなっているのを参考にして貰いたいと思う。
- ・また、西部地域のような下町とニュータウンの比較をすると、ニュータウンでは大規模デベロッパーが大きく動かしているの、動かしたい時には大きな力が必要となる。ニュータウンでは低家賃の店舗がほとんどないので、所謂チェーンストアのようなものしか立地できず、新しくビジネスを始めるチャンスが少ない。一方、下町では月数万円で借りられるような場所があるので、ビジネスチャンスの面で有利です。また、住宅の面でも家賃の幅が広く多様な方々が住める場所でもあります。多様性を受け止めて、新しくビジネスを始めたい方のハードルを下げたあげること考えていけば、今までとは少し違う面白い開発が見えてくるのではないかと期待している。
- ・事業開発について地元の意見を入れることは私も同感である。こちらから条件をしっかりとつけて土地を売却すれば、条件通りやってくれる企業が多いので、コントロールをうまくやれば良いと思う。
- ・企業は地元に対して責任を持ってくれる企業と自分のところの利益に走る企業の2つに分かれる。地元に対して責任を持って動いてくれる企業とパートナーシップを組めば長年やっていけるのではないかとと思う。腰掛的な事業者でないか目利きする必要がある。
- ・商業系の方は10年目途で物事を考えるが、まちづくり系の方は25年強で物事を考えるのでスピード感が違う。着地地点を決める時も、15年契約ではなく25年は見てくれるような契約でやることによって、長く付き合っ貰うことができる。ある地域では職員の方が頑張った結果、25年の計画で撤退する場合に事業者の親会社が責任を取るという形で契約をした。当初入っていたテナントが不調で撤退した時も契約どおり次のテナントを事業者が見つけてくれた。このように言いたいことをしっかり言うことで、企業も約束をしてくれる。お互い膝を突き合わせて条件のすり合わせをやっていくことによって、官民協働のまちづくりができるのではないかと期待している。

5. 閉会

(会長)

- ・区役所も積極的に関わってまいるが、地域活動協議会の会長には、「部会員」の地域での「アクションプラン」策定の具体的な活動に際して、今まで以上のお力添えをお願いしたい。また、「部会員」の皆様には、引き続き「部会」での前向きな意見交換をお願いしたい。
- ・本日も確認いただいた新大阪駅東口のまちづくりの考え方については、これを踏まえ、まちづくりの具体化を進めていく必要があるの、関係する皆様のお力添えをよろしくをお願いしたい。

(事務局)

- ・次回の開催予定ですが、来年3月9日を予定している。なお、各部会において協議会に諮る案件が生じれば別途ご連絡させていただく。

以上